

エストニア共和国タリン市立ヤルヴェオツア高校日本語教育事情

高橋清彦

1) 開講年 1993年9月

2) 歴史

1993年9月以来エストニアでは唯一の高校レベルでの日本語学習実施校。

教員は常時2名(非常勤)を確保。

高校一年から三年までの3年間、選択必修科目で日本語履修の卒業生合計79名。

現在、上級学校に進学して日本語学習を継続する学習者7名。

(内日本留学経験者及び留学中・留学決定者 計5名)

現在までのエストニアの初等・中等レベルで日本語教育を実施する唯一の高校。

3) 日本語授業の位置付け

選択必修科目 履修年限 3年 高校入学時一端選択したら卒業まで

履修を義務付けられる(途中選択変更不可、不合格者は留年または退学)

4) 授業時間 各学年 週5時間(45分単位)

5) 日本語関係教員数 2名(非常勤)、母語 2名

6) 学習者数 13名

内訳:	高3	履修2年	8名
	高2	履修1年	5名
	高1	9月から履修開始	6名

合計 19名

卒業生 79名 中 7名は上級機関にて日本語学習継続

7) 使用教材 高3 優秀者 初級日本語 初級後半

普通者 みんなの日本語

高2 にほんごかんたん Book 2 初級前半

(優秀者は終了次第高3教材学習に移行)

高1 にほんごかんたん Book 1 初級前半

8) 到達レベル(実績)

高3 日本語能力試験 4級レベル到達者 1名

(上記から ACTFL/OPI テスト初級上評価 1名)

高2 日本語能力独自基準試験(5級)到達者1名

9) 特記事項

*2000年9月から一年間、エストニア教員がエストニア教育指導当局の圧力で当校日本語教員として参入して、高1学習者9名を一年間指導したが、邦人教員の助言をを全く無視して独自の指導をした結果、4名は既に退学、残る5名も上記*の通りの結果となり、本年6月に同教員は自発退職した(9月からは報告者(高橋)がこのクラスの授業を引き受ける)。

「独自方式の指導」とは大学の授業形態をその倣持ち込んだ方法で、授業への出欠は自由、文字習得は自宅学習原則、欠席者への補習はしないなどの指導方針を持つ。この失敗により「高校生には教員による相当な指導が不可欠にて自由学習任せはそぐわない」との邦人教員の指導方針の正統性を裏付ける結果となった。